

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

奈良市立若草中学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 「めあてシート」と「振り返りシート」を活用した主体的に学ぶ子どもたちの姿

めあて・振り返りシート

T	U	V	W	X	Y	Z	AA
授業めあて	バレーボールの基本的なボール操作を身につけ、【アンダーハンドパス】・【オーバーハンドパス】の提出						
今日の目標目標は、わかりやすくポイントを明確にする。	授業計画	今日の評価評価はA・B・Cの三段階			今日の自分の評価【結果・考察・結論】 結果・・・できた。できなかった。 考察・・・結果を見て、なぜそうなったのか、どう思ったのかを考察すること。 結論・・・考察したことをもとにして、次にどうするか。	手エック	文字数
ボールが落ちてくるまで素早く移動する	動画撮影	A	A	A	ボールが落ちてくるまで素早く移動することができました。素早く移動することで、次の動作をスムーズにすることができました。動画撮影をして、ボールをもう少し高く飛ばすことができていると思いました。今回、手の力を抜いて跳ねることを意識しながら飛ばすとうまくできたので次回もそれを意識して取り組んでいきたいです。	✓	152
ボールをしっかりと見て落ちてくる位置を予測してボールを突く。	友達にみせよう 自分で調べる	A	A	A	ボールをしっかりと見て落ちてくる位置を予測してボールを突くことができました。また、手の力を抜くことについては、特に親指が痛くなったので自分で調べ、親指を付け替えるようにするのを覚えました。オーバーハンドパスでは、加藤さんが「もう少し膝を使うと良いかも」とアドバイスくれたので膝を柔らかくして使うと、落ちてくるボールの下にスムーズに行き着くことができました。しかし、まだ確実にボールを真上に突き放すことができていないので次はレベル2を練習するなどして一番良い手の形を覚え、乱れもすぐに手の形を戻せるようにしたい。	✓	250
身体全体を使って手や足を運動する。	友達にみせよう	A	A	A	アンダーハンドパスとオーバーハンドパスを手や足を運動させてやることで、足を曲げてボールを上げる時に伸ばしたからしっかりと上におけたのだと思いました。西田くんはオーバーハンドパスのときは上げ過ぎたからもう少し下げてと良いとアドバイスを貰いました。次は少し低めにしようと思います。	✓	144
ボールの動きをコントロールして、アンダーハンドパスとオーバーハンドパスをする。	友達にみせよう	A	A	A	アンダーハンドパスのレベル2まで行けた。アンダーハンドパスをするときにボールが後ろに行ってしまうので、友達に気付けてとやるといいよと言ってくれたので、やってみると、ボールをコントロールすることができた。次は両手を同じ高さでボールを弾くと、変な方向にいかず、もっとコントロールがしやすくなると思う。	✓	152



自分はどうしたい、どうなりたいということ
を日常的に考えるサイクルへ

授業の初めにめあてを、授業の終わりに振り返りを書くようにしました。紙のワークシートで書いていたときに比べ、友達の書く内容を参考にできるからか、普段かけない生徒もまずは真似から入り、少しずつ自分の言葉で表現できるようになりました。

また、本校では自分で学ぶことはもちろん、他者との関わりを通じて学ぶことを主題にしています。振り返りシートにも、「誰」と「なにをした」と記載させることで、個人の学びに閉じず学びを深めることができました。

結果として、これまでの「先生から教えてもらう」という姿勢から、授業の時間に「自分は何をしたい」「何ができるようになりたい」ということを考えながら学ぶ生徒が増えました。

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

奈良市立若草中学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 「若草探究プログラム」を軸にした探究活動について

未来を創造



これまでのカリキュラムを捉え直し、探究的に学ぶ力を育成を目指しました。

本校では、いわゆる探究のサイクルである「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」について、「知る」「考える」「伝える」「共感する」活動と読み替え、これらを「未来を想像する力」として取り組みを進めました。日常的な授業から、これらの活動を重視し、個人個人が主体的に学ぶことはもちろん、他者との関わりを通じて自分を表現することを重視してきました。

総合の時間においては「若草探究プログラム」と題し、自分たちでテーマを設定し、テーマに応じて調べ・考え合い・発表する活動を行いました。プレゼンテーションについては地域の企業などにも協力いただき、相手に伝わるプレゼンとは何かを学びました。



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

奈良市立若草中学校（奈良県）【指定校】

【取組内容】 教員業務のフルクラウド化による業務のBPR

クラウドを積極活用することで、紙を使わず情報紛失のリスクも軽減

奈良市では、令和5年度に学校のネットワークシステムを更改し、アクセス制御型のフルクラウド環境に移行しました。本校では、奈良市全体の取組でもあることから、セキュリティ対策されたクラウドを活用し、クラウドを活用した業務改善に取り組みました。

取り組みに当たっては、既存の業務をデジタル化するだけでなく、クラウドを活用した報連相のやり方を変えるなど、業務改善につながる取組を進めました。

Chatを中心に、日常的な業務をクラウドで行うことで、業務連絡の簡素化や協働的に働くことができました。また、機微な個人情報を含むデータもクラウドを活用できることから、印刷などをすることなく、書類の紛失などのリスクを軽減することができました。

